

2007年12月1日発行

21世紀COEプログラム

男女共同参画社会の法と政策

ジェンダー法・政策研究センター

Gender Law & Policy Center

アエルビル19階(JR仙台駅前)

News LETTER

No.17

CONTENTS

はじめに	01
東北大学国際高等研究教育機構記念講演会	02
東北大学男女共同参画シンポジウム報告	03
研究発表・講演会などの報告	04
融合領域研究合同講義「ジェンダーと法」開催	05
全学教育科目「ジェンダーと人間社会」	06
シンポジウム・セッションなどの参加報告	07
国際高等融合領域研究所セミナー開催	08
海外のジェンダー法研究センターとの連携	09
研究会・関連学会等の日程	10

お問い合わせ

21世紀COEジェンダー法・政策研究センター
〒980-6119 仙台市青葉区中央1丁目3-1
アエルビル19階
TEL(022)723-1965
<http://www.law.tohoku.ac.jp/COE>
東北大学大学院法学研究科COE支援室
〒980-8576 仙台市青葉区川内27-1
TEL(022)795-3740
E-mail:21coe@law.tohoku.ac.jp

Preface

はじめに

COE活動の総括にむけて



21世紀COEプログラム
「男女共同参画社会の法と政策」
拠点リーダー
辻村みよ子

2007年7月の国際シンポジウムを終えて、我々の21世紀COE「男女共同参画社会の法と政策」拠点の活動も総括段階に入りました。5年間の研究活動をふりかえると、開催したシンポジウム・研究会の総数が90回、成果として刊行したジェンダー法・政策研究叢書全12巻や研究年報和文・欧文各5巻の執筆者総数が延べ370名以上に及んでいることがわかりました。これらの数字には、このプロジェクトが、いかに多くの皆様のご協力によって支えられてきたかが示されています。

とくに、研究成果を政策にも還元するという当初の目的にそって編集集中のジェンダー法・政策研究叢書第12巻『男女共同参画のために政策提言』には、各界の第一人者の方々が38名も執筆してください、それぞれ有益な政策提言をしてくださいました。近く刊行予定ですので、ご期待いただければ幸いです。

また、ジェンダー問題の基礎理論と政策課題を架橋することを目指して開催された7月の国際シンポジウムでは、キャサリン・マッキン教授ら国内外の報告者11名のほか、国内の研究者10名にコメントーターをお願いするなど多くの方々のご協力を頂きました。この内容はジェンダー法・政策研究叢書第11巻に収録され、2008年2月刊行予定です。

また2007年9月に刊行された第10巻『ジェンダーの基礎理論と法』にも、ジェンダー学の立場から江原由美子教授、上野千鶴子教授、竹村和子教授、生物学の立場から長谷川眞理子教授、東村博子教授、女性史について桜井万里子教授、井上たか子教授など、錚々たるメンバーが執筆して下さっており、ジェンダーの基礎理論に関する学際融合的な検討を深めることができました。

このような学際融合研究の手法は、本COEの研究期間が終了した後も、東北大学の国際高等研究教育機構・融合領域研究所等での研究・教育に引き継がれることになっています。このニューズレター17号では、去る10月25日に仙台で開催された国際高等研究教育機構開設記念行事について、2頁で紹介していますので、ご覧ください。

ところで、21世紀COEの重要な目的の一つが、人材育成です。

本COE拠点では、ジェンダー・センシティブな若手研究者の育成という課題を掲げて、東北大学内外より延べ32名のCOEフェロー(研究員)、延べ41名のTA/RA(博士後期課程学生)と22名のCOE留学生を採用し、研究支援を行ってきました(COEフェローのうち7名は、既に東北大学及び他大学の准教授・専任講師等として巣立ってゆきました)。海外連携拠点として開設したパリ拠点には13名、ニューヨーク拠点には15名の大学院生等を派遣しました。

またジェンダー教育にも力を入れ、学部生や大学院生を対象としたジェンダー教育の実践を行いました(後掲6頁参照)。延べ約700名の学生(法科大学院では160名)が受講しただけでなく、延べ17名のCOEフェローも講義を分担することで、実践的な人材育成の面で成果をあげることができました。

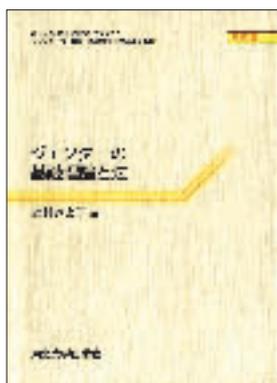
男女共同参画についてバックラッシュの影響が大きくなっている昨今では、大学生などに対するジェンダー教育が非常に重要になっていると思われます。例えば、今年8月に内閣府が調査した「男女共同参画社会に関する世論調査」(<http://www8.cao.go.jp/survey/h19/h19-danryo/index.html>)結果では、「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきであるか」という質問に対して、「賛成」とする者の割合が44.8%(「賛成」13.8%+「どちらかといえば賛成」31.0%)、「反対」とする者の割合が52.1%(「どちらかといえば反対」28.7%+「反対」23.4%)で、「反対」が上回っています。しかし職業別に見ると、「賛成」とする者の割合では、何と、男女とも「学生・その他の無職」の比率が最も高くなっているのです(女性48.9%、男性58.4%)。この現実を、我々は深刻に受け止める必要があるでしょう。

この点でも、男女共同参画社会を実現するためには、大学の役割が極めて重要であることがわかります。ジェンダー教育を実施する課題、科学技術の進歩・イノベーションを男女の研究者が担ってゆく課題を十分に自覚するとともに、大学自体が率先して自ら男女共同参画社会を形成していなければなりません。これらの課題に対して東北大学その他の大学でも真摯に取り組んできましたが(第6回東北大学男女共同参画シンポジウム、100周年記念事業等につき、3頁・7頁を参照してください)、今後も、男女共同参画社会の実現に向けて、研究・教育・実務・行政・市民運動の五者連携を推進してゆく必要があると考えています。

本COE活動の成果をさまざまな形で今後も継続してゆく予定ですので、変わらぬご支援・ご協力を何とぞよろしくお願い申し上げます。

成果の出版

ジェンダー法・政策研究叢書



ジェンダー・政策研究叢書
第10巻(辻村みよ子編)
『ジェンダーの基礎理論と法』
が刊行されました。

第12巻(辻村みよ子・河上正二・水野紀子編)
『男女共同参画のために 政策提言』
が刊行されます。

Commemorative Lecture

東北大学国際高等研究教育機構開設記念行事
記念講演会『知を生産する若者へのメッセージ』が開催されました

主催：東北大学国際高等研究教育機構
日時：2007.10.25(木) 14:00～16:50
会場：仙台国際センター 大ホール

東北大学国際高等研究教育機構の開設記念行事として、ノーベル賞受賞者である大江健三郎氏(文学賞)と白川英樹氏(化学賞)を招いて記念講演が開催された。若手研究者へのメッセージとして、大江氏は「新しい知識人を期待する 領域からも国籍からも自由な」という題目で、白川氏は「学術研究と異分野融合」という題目で、それぞれに“融合”をテーマに自らの体験をふまえて講演された。



プログラム

記念式典
14:00～14:30

- 1.開式の辞
- 2.式辞 国際高等研究教育機構長 渡邊 誠
- 3.挨拶 東北大学総長 井上 明久
- 4.祝辞 (独)科学技術振興機構 顧問 阿部 博之
仙台市長 梅原 克彦
- 5.国際高等研究機構について 国際高等研究教育院長 井原 聡
修士研究教育院生の紹介
国際高等融合領域研究所特別研究員紹介
国際高等融合領域研究所兼任教員・客員教授紹介
- 6.閉式の辞

記念講演会
14:40～16:50

「新しい知識人を期待する 領域からも、国籍からも自由な」 ノーベル文学賞受賞者 大江健三郎先生
「学術研究と異分野融合」 ノーベル化学賞受賞者 白川英樹先生

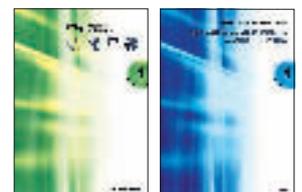


ノーベル化学賞受賞者 白川英樹氏



ノーベル文学賞受賞者 大江健三郎氏

ニューズレター バンフレット(日・英・仏語) フランスでの研究成果(仏語) 日本のジェンダー問題(英語) 研究年報(日本語・外国語)



Symposium

第6回 東北大学男女共同参画シンポジウム

『イノベーションを生み出す男女共同参画』が開催されました

主催：東北大学、
東北大学男女共同参画委員会
日時：2007.11.17(土) 13:00～16:30
会場：仙台国際センター 2階大会議室「萩」



催しでは、まず、今年度の東北大学男女共同参画奨励賞(通称:沢柳賞)の授賞式が行われ、研究、活動、プロジェクトの3部門で表彰が行われた。本COEからは、研究叢書第9巻執筆者でもある法学研究科博士後期課程の阿部未央さん(研究部門特別賞)、事業推進担当者の松島紀佐・工学研究科准教授(活動部門・代表者)、教育学研究科博士後期課程でCOE・RAの尾崎博美さんとFクラスター責任者の生田久美子・教育学研究科教授(プロジェクト部門)が、それぞれ受賞した。

式に引き続いて行われた第二部では、黒川清政策研究大学院大学教授が『イノベーション:日本の課題』というタイトルで基調

講演を行った。黒川氏は、グローバル化シフト化する世界では、技術革新という意味を越えたイノベーションが重要になること、またそうしたイノベーションの創出には女性や外国人といったこれまでで役とされなかった人材がむしろ求められることを述べた。

その後、黒川氏を交えたパネルディスカッションが行われ、技術系や工学系における女性の少なさが指摘されると同時に、選択肢を与え異質の存在を許す社会システムの必要性や、イノベーションを生み出す上で男女共同参画の意識を高めてゆく重要性が論議された。

(COE研究員 池田 丈佑)

—平成19年度— 東北大学男女共同参画奨励賞(沢柳賞)受賞者一覧

- 研究部門 教育学研究科特別研究員 齊藤綾美
「インドネシアの地域保健活動の成立と展開 地域社会からみた『開発の時代』」
- 同特別賞 法学研究科博士後期課程 阿部未央
「イギリスにおけるパートタイム労働の平等法理 男女差別からのアプローチ」
- 活動部門 工学研究科 機械・知能系男女共同参画推進委員会
同ワーキンググループおよび女子学生交流会学生スタッフ
「機械工学系男女共同参画推進委員会の設立と工学分野における先導的活動」
- プロジェクト部門 教育学研究科 尾崎博美 八木美保子 水原克敏 生田久美子
「男女別学における生徒のライフ/キャリアデザイン 教育目的とカリキュラムの分析」
- 同特別賞 文学研究科専門研究員 ヤマモト・ルシア・エミコ
「国際労働移動が家族関係にもたらす影響 性別役割の研究を中心に」



黒川清教授



パネルディスカッションの様子



受賞者



授賞式



パネリストの方々



Innovation fair

『東北大学イノベーションフェア2007 in 仙台』に参加しました

主 催：東北大学 産学官連携推進本部
日 時：2007.10.5(金) 10:30～17:00
会 場：仙台国際センター 2階「萩」橋



2007年10月5日(金)、『東北大学イノベーションフェア2007in仙台』が仙台国際センターにて開催された。教育研究活動や産学官連携の取り組みの成果を広く紹介し、新たな出会いの場を創出することを目的として催された本フェアは、情報通信分野やナノテク・材料、医工・ライフサイエンス、ロボット工学など、最先端の研究・技術内容が、展示ブースやプレゼンテーション等で紹介された。

本COEプログラムも『ジェンダーと法』研究の新天地」というテーマのもと、社会科学系で唯一研究成果を紹介した。当日会場では、各研究員による研究発表とともに、ジェンダーに関する知識をクイズ形式でお答え頂き、来場者の関心を集めた。難易度の比較的低いものから高いものまで、様々な分野にわたって集められた全20問の問いに懸命に取り組む参加者でブースは大いに賑わった。

参加者からは、クイズや発表に関する熱心な質疑がなされるなど、一日を通して人足が絶えることなく、大盛況であった。ジェンダーに対する高い関心の一端が窺われた。

(COE研究員 竹田 香織)

Report

米国NSF(National Science Foundation)前長官リタ・コルウェルさん講演会 「科学技術分野における女性の研究者の活躍促進」の紹介

東北大学工学研究科准教授 松島紀佐
(COE事業推進担当者)



主 催：東京大学男女共同参画室、
東京大学総長室
プレジデント・カウンシル事務局(共催)
日 時：2007.11.9(金) 15:00～17:00
会 場：山上会館2階 大会議室

11月9日に東京大学山上会議所で表題の講演会が開催された。この講演会は今年度端緒について東京大学における文部科学省振興調整費女性研究者育成モデル事業の紹介を兼ねて開催された。東大の事業は日本の女性研究者の国際化を目標の一つにしており、講演会は英語で行なわれた。講演会のポスターと様子を下図に示す。参加者は70名程度、男性が3割程度であった。

まず、日本および大学における科学技術分

野女性研究者の現状と課題が示され、これに呼応する形でリタ・コルウェルさんが女性科学技術者育成の必要性や育成のための幾つかの戦略、また、日本の女性研究者への期待を熱意を持って語られた。その後、講演者の方々と会場の聴衆とで討論が行なわれた。非常に活発な議論が行なわれ、私も質問させて頂くことが出来た。それらの議論は刺激にもなり、男女共同参画に対する認識を新たにする機会となった。

まとめとして、認識を新たにしたい事を2つ述べる。

- 1 (一世代前のフェミニスト運動とは異なる新世代の)男女共同参画は産声を上げたばかり。多少は先進しているが米国といえども変えていかなければならないことはたくさんある。日本においては全てを変える位の長期間にわたる取り組みをする覚悟が必要。
- 2 大学において女性研究者活躍促進のためには、既存の枠内でやりくりするのではなくポストの数を増やしていくことが重要である。

本COEプログラムが担当する

全学教育科目「ジェンダーと人間社会」が始まりました

《授業の日程・内容》

第1回(10月4日)	開講にあたって	田中重人(講師・事業推進担当者)
第2回(10月11日)	法理学とジェンダー	樺島博志(教授・事業推進担当者)
第3回(10月18日)	国際政治とジェンダー	戸澤英典(准教授・事業推進担当者)
第4回(10月25日)	東欧政治とジェンダー	平田武(教授・事業推進担当者)
第5回(11月8日)	政治思想とジェンダー	池田丈佑(COE研究員)
第6回(11月15日)	憲法とジェンダー	中林暁生(准教授・学内研究協力者)
第7回(11月22日)	公務員制度とジェンダー	稲葉馨(教授・事業推進担当者)
第8回(11月29日)	刑事法とジェンダー	矢野恵美(助教(国際高等融合領域研究所)・元COE研究員)
第9回(12月6日)	民法における「人」と女性	河上正二(教授・事業推進担当者)
第10回(12月13日)	科学研究とジェンダー・知的財産の活用	蘆立順美(准教授・事業推進担当者)
第11回(12月20日)	社会保障とジェンダー	高さやか(准教授・事業推進担当者、クラスター責任者)
第12回(1月10日)	労働とジェンダー	柴田洋二郎(専任講師(中京大学)・元COE研究員)
第13回(1月17日)	ジェンダーと文化	李善姫 イ・ソンヒ(COE研究員)

本年度も後期から、全学教育「ジェンダーと人間社会」の授業が始まった。この授業は1年生対象の基幹科目である。21世紀COEプログラム「男女共同参画社会の法と政策」では、2年前から、全学教育におけるジェンダー論の授業を担当しており、各分野の専門家が1回ずつ講義を受け持つ、いわゆる「オムニバス」の形式でおこなってきた。今年度は、前半は思想・政治の分野におけるジェンダー問題、中間では法学の各領域におけるジェンダー問題、そして最後の数回は社会保障・労働・文化などの具体的な領域でのジェンダー問題に焦点をあてた授業とする予定である。

教務情報システムに登録の情報によれば、講義受講者は253名である。うち半数ちかくが工学部の学生であり、医学部・農学部などもあわせて、いわゆる「理系」の学生が大半を占めている。現在の大学のカリキュラムでは、専門分野の垣根を越えて知識を積み重ねることがなかなかむずかしい。そのため「理系」の学生が「文系」の分野について深く学ぶということがあまりない(逆も同様だけれども)。

この授業が、単にジェンダー問題への目を開くというだけでなく、法学・政治学あるいはより広く社会科学への興味を持ってもらえる端緒になればと思う。

(田中重人)



田中講師



戸澤准教授



平田教授



池田COE研究員



中林准教授

Symposium

東北大学創立百周年記念 国際シンポジウム

『女性百年 教育・結婚・職業《いかに生きたか、いかに生きるか》』に参加して

東北大学大学院法学研究科客員准教授 イザベル・ジロドゥ (Isabelle Giradou)

主催：文学研究科・教育学研究科・法学研究科・経済学研究科・国際文化研究科・東北アジア研究センター(共催)

日時：2007.10.7(日) 13:30~17:00

会場：マルチメディアホール
東北大学川内北キャンパス マルチメディア教育研究棟2階

日本の国立大学の中でもっとも早く女子学生に門戸を開放した東北大学の歴史を振り返りつつ、女性問題を考える国際シンポジウム「女性百年 教育・結婚・職業」が、10月7日東北大学川内北キャンパス・マルチメディア研究棟で開かれた。シンポジウムは、帝国大学時代の1913年、帝大として初めて女子学生を受け入れた東北大学の創立百周年記念行事の一環であった。「いかに生きたか、いかに生きるか」というテーマで、元日本女子大学学長や仙台市副市長など、国内外で活躍する6人の女性がそれぞれの立場から意見を述べた。

1944年に旧東北帝大法文学部を卒業した元日本女子大学学長の青木生子氏が、「戦中・戦後を生きて」というテーマで基調

講演し、女性を取り巻く性差別問題に触れながら、女性の生き方を説いた。次に、職業上の性差別問題に関して、東北大学大学院法学研究科客員准教授のイザベル・ジロドゥは司法の世界を、仙台市副市長の奥山恵美子氏は女性公務員を、それぞれ取り上げた。続く明治大学講師の早川紀代氏は、「女と男の歴史が語りかけるもの 戦争と平和をめぐる」というテーマのもと、日本の教育史、女性史の上で特記されるべきことを強調した発表を行なった。そして最後に、筑波大学大学院人文社会科学研究所講師のバクソンミ氏による「女性たちの知の回遊 戦前朝鮮人女子日本留学生の役割」と題した講演で、シンポジウムは締め括られた。



性差別問題を追究してきた詩人の高良留美子氏の講演の中で述べられた的を射た表現によれば、全ての講演は結局「インサイダーとして、アウトサイダーとして」生きてきた女性というパラドックスについて語ったものだった。女性にとって学者、幹部公務員、そして司法官職等への道が広がってきた中で、今後は、生活者の視点と経験をいかに政策・実践に生かしていけるかが大きな問題であると感じられた。

青森県パートナーセッション

『男女共同参画社会づくりに果たす男性の役割』
パネルディスカッションに参加して

東北大学国際高等融合領域研究所助教 (東北大学ジェンダー法・政策研究センター) 矢野恵美

プログラム

10:30~12:00
プレイベント
映画上映「ダブルシフト - パパの育て奮闘記 - (2004年・スウェーデン)」

13:00~13:15
オープニングセレモニー
青森いきいき男女共同参画社会づくり表彰
主催者挨拶 青森県知事 三村申吾

13:15~14:45
基調講演
「男性から見た男女共同参画社会」
講師 北村晴男氏(弁護士)

14:50~16:00
パネルディスカッション
「男女共同参画社会づくりに果たす男性の役割」
パネリスト
三上久美子氏
(NPO法人ウィメンズネットワーク青森理事長)
羽田修氏(育児体験者・家庭教師)
矢野恵美氏
(東北大学国際高等融合領域研究所・助教)
コーディネーター
小山内世喜子(アピオあおもり副館長)

当日は、アピオ青森副館長小山内世喜子氏の司会の下、まずNPO法人ウィメンズネットワーク青森副理事長鹿内文子氏から、青森県の委託事業でなされた「青森県の男性の男女共同参画に関する意識調査」という国内でも非常に珍しい、男性に対する男女共同参画に関する意識調査について、非常に興味深い結果報告がなされた。続いて、3人のお子さんの父親である塾経営者羽田修氏から、男性の生き方、夫婦のあり方について、ご自身の育児経験を踏まえた、まさしく地に足のついた報告と提案があった。そして最後に、男女共同参画における男性の役割について、スウェーデンと日本の男女共同参画に関する取組、男性の状況の違い等を、データを踏まえつつ矢野が紹介した。

現在の日本では、専業主婦のいる家庭で

も、夫婦が共に働く家庭であっても、男性の家事に携わる時間は変わらず、男性の意識、男性の働き方を見直さない限り、男女共同参画は進まず、少子化にも歯止めがかからないのではないかと、男性の意識、興味を高めるためには国や地方自治体による広報・啓発活動が非常に重要であることなどが挙げられた。



パネルディスカッションの様子

Seminar

東北大学国際高等融合領域研究所セミナー第4回【言語・人間・社会システム領域基盤】 『矯正施設(刑務所・少年院)処遇の今 ジェンダーの視点から』を 開催して

東北大学国際高等融合領域研究所助教(東北大学ジェンダー法・政策研究センター) 矢野恵美

主催：東北大学国際高等融合領域研究所、東北大学法学研究科21世紀COE(共催) 日時：2007.11.12(月) 15:00~18:00
場所：仙台弁護士会館 4階会議室

はじめに、東北大学国際高等融合領域研究所、及びジェンダー法・政策研究センターの紹介を行い、その後日頃刑事司法を専門としない方のために、少年院と刑務所の違いに関する簡単な説明、さらに、矯正施設(少年院・刑務所)における処遇について、これまで女性の社会における性的役割分担、ジェンダーの視点から取り上げることが欠けていたのではないかと本セミナー開催の趣旨説明を矢野が行った。

日本の矯正施設、特に女子少年院では既に非行をした女子少年の特性に注目した処遇を行ってきているが、そのことに注目して、一般の方に紹介されることはあまりなかったため、名執雅子氏(青葉女子学園長)からは、仙台市内の女子少年院である青葉女子学園での処遇について、ご講演頂いた。データやDVDを用いたご講演からは、女子少年の特性に配慮しながらの法務教官の真摯な取組、熱心な教育が少年達の心に届き、少年達が変わっていく様子が伝わってきた。まずは自分自身の生き方を見つめ直さなければ、自分の犯したことについて目がいくようにはならないということが述べられた。

続いて、吉野智氏(法務省矯正局)には、今、様々な点で行き詰まりつつある、刑務所内での作業や就労支援について、日本初のPFI刑務所(官民協働刑務所)である美祿社会復帰促進センターにおける最新の女子受刑者処遇についてご紹介頂いた。新しい刑務所内の様子が写真で紹介され、実際に

使用されている認知行動療法プログラムについても詳しい説明があった。現在の日本の刑務所における、刑務所に作業を依頼してくれる協力雇用主を探すことに苦慮している、処遇内容や職業訓練の内容を所後の就労に結びつけることが難しくなっている等の問題に対する解決策の一案が紹介されると共に、今後は、教育内容や職業訓練の内容に関しては男女差がなくなっていくのかもしれないということが示唆された。

最後に矢野が、犯罪をジェンダーの視点から見直した際に、大きな問題の1つとなるドメスティック・バイオレンス(以下DV)について、日本では加害者更生プログラムが国としては行われていない現実をふまえ、男女共同先進国スウェーデンの取組として、スウェーデン刑法のDV罪規定、DV加害者への更生プログラムの内容、DV加害者を集め、専門の処遇を行っている刑務所の概要と処遇内容を紹介した。

東北大学関係者、司法関係者、市民の方々等、40名を越す参加者があり、質疑応答の際には、法学研究科坪野吉孝教授、仙台弁護士会小島妙子弁護士等から矯正施設における処遇プログラム及び、DV加害者更生プログラムについての評価研究の必要性に対する指摘があった他、本セミナーでは時間と趣旨の関係から行わなかったが、男女両方の処遇を比較してはどうかという、今後の参考となるご意見も頂戴し、活発な議論が展開された。



プログラム

- 1 研究会趣旨説明
東北大学国際高等融合領域研究所 矢野恵美氏
- 2 女子少年院における処遇
青葉女子学園長 名執雅子氏
- 3 PFI刑務所における女子の処遇
法務省矯正局 吉野智氏
- 4 北欧におけるDV加害者の処遇
東北大学国際高等融合領域研究所 矢野恵美氏
- 5 質疑応答



青葉女子学園長 名執雅子氏



法務省矯正局 吉野 智氏



国際高等融合領域研究所 矢野恵美氏



質問する坪野吉孝教授(東北大学法学研究科)



フロアからの質問に答える名執氏



フロアからの質問に答える吉野氏



2007年11月13日 河北新報

Research center list

本COEが訪問した主な海外のジェンダー研究センター

韓 国	<p>梨花女子大学校法科大学ジェンダー法センター http://ewhawoman.or.kr/kwi_eng/index.php</p> <p>韓国政府・女性家族部 http://www.mogef.go.kr</p>	フランス	<p>マルグリット・デュラン図書館 La Bibliothèque Marguerite Durand http://www.paris.fr/portail/Culture/Portal.lut?page_id=463</p> <p>トゥルーズ大学ジェンダー研究センター Équipe Simone-SAGESSE http://w3.univ-tlse2.fr/simone/spip/0start.php3</p>
北 欧	<p>ストックホルム大学ジェンダー研究センター http://www.kvinfo.su.se</p> <p>International IDEA (International Institute for Democracy and Electoral Assistance) http://www.idea.int/</p> <p>ヘルシンキ大学クリスティーナ研究所 http://www.helsinki.fi/kristiina-instituutti/</p> <p>ノルウェー国立女性博物館 http://www.kvinnemuseet.no/</p> <p>スウェーデン国立女性センター http://www.akademiska.se/templates/page_____25759.aspx (現在は「男性による女性に対する暴力に関する国立情報センター」に改名)</p>	カナダ	<p>トロント大学女性学・ジェンダー学研究所 Women and Gender Studies Institute, New College-University of Toronto http://www.utoronto.ca/iwsgs/</p> <p>オタワ大学女性と政治研究所 Centre de recherche sur Femmes et politique</p> <p>オタワ大学女性学研究所 Institute d'études des femmes http://www.socialsciences.uottawa.ca/womenst/fra/index.asp</p> <p>全国女性と法協会 National Association of Women and the Law (略称NAWL) http://www.nawl.ca/</p> <p>女性の地位向上のためのカナダ研究所 Canadian Research Institute for the Advancement of Women(略称CRIAOW) http://www.criaw-icref.ca/</p> <p>カナダ女性の地位庁 Status of Women Canada http://www.swc-cfc.gc.ca/</p>
アメリカ	<p>コロンビア大学女性とジェンダー研究所 (Institute for Research on Women and Gender) http://www.columbia.edu/cu/irwag</p> <p>APRI(American Prosecutors Research Institute) http://www.ndaa-apri.org/apri/</p> <p>国連女性の地位委員会 http://www.un.org/womenwatch/daw/csw/</p> <p>ヴァージニア大学女性センター http://womenscenter.virginia.edu/index.htm</p> <p>Sewall-Belmont House Florence Bayard Hill Library http://www.sewallbelmont.org/</p>		



コロンビア大学女性とジェンダー研究所が入っている建物の外観



梨花女子大学校法科大学ジェンダー法センター

トロント大学付属図書館「女性学コレクション」入口
(Women's Studies Collection, Donald Glen Ivey Library)

スーール=ベルモント・ハウス外観



ヴァージニア大学女性センター外観



スウェーデン国立女性センター

研究会・関連学会 / 会議日程 2007.12 - 2008.2

<p>2007.12.6 [木] 16:00 ~ 18:00</p> <p>法学部棟2階 大会議室 主催: C(家族)クラスター 共催: 民法研究会 担当: 水野紀子教授</p>	<p>学内研究会 「<COE番外編> 魔女はいかにして魔女となりしか」</p> <p>東北大学大学院法学研究科 河上正二 教授</p> <p>「中国婚姻法における 婚姻の成立と事実婚に対する法的対応」</p> <p>東北大学大学院法学研究科COE研究員 テムエリコリト 氏</p>
<p>2007.12.8 [土] 13:30 ~ 19:30 9 [日] 10:00 ~ 17:30</p> <p>文京学院大学 ウイングホール(B館8階)</p>	<p>ジェンダー法学会 第5回学術大会</p>
<p>2007.12.14 [金]</p> <p>法学部棟2階 大会議室 主催: A(政治参画)クラスター 担当: 川人貞史教授</p>	<p>学内研究会 「政治家志望と文化的要因の関連」</p> <p>東北大学大学院法学研究科博士後期課程・日本学術振興会特別研究員(COE) 竹田香織 氏</p>
<p>2007.12.22 [土] 9:15 ~ 18:00</p> <p>東北大学川内キャンパス 文系総合棟11階大会議室 共催: 日本ジェンダー学会・ Association for Gender Issues in Academia 後援: 東北大学21世紀COEプログラム 「男女共同参画社会の法と政策」</p>	<p>日本ジェンダー学会 コロキウム 「変容する家族と拡散する親密圏」</p>
<p>2008.1.12 [土] 13:00 ~ 17:00</p> <p>日本学術会議講堂 主催: 日本学術会議 後援: 東北大学21世紀COEプログラム 「男女共同参画社会の法と政策」他</p>	<p>日本学術会議主催 公開講演会 「人口とジェンダー 少子化対策は可能か」</p>
<p>2008.1.26 [土] 13:30 ~ 15:00</p> <p>エル・パーク仙台 セミナーホール (141ビル5階) 主催: (財)せんだい男女共同参画財団</p>	<p>(財)せんだい男女共同参画財団 ジェンダー論公開講座 「世界におけるジェンダー平等 ~ 研究と政策の最先端から」</p> <p>東北大学ジェンダー法・政策研究センター COE研究員 池田丈佑 氏</p>

お問い合わせ

21世紀COEジェンダー法・政策研究センター
アエルビル19階
TEL(022)723-1965

東北大学大学院法学研究科COE支援室
TEL(022)795-3740